



中里
隆

陶
の
旅
人

Takashi Nakazato
A Journey through Clay

2021
Exhibition at Musée Tomo



“中里 隆 陶の旅人 Takashi Nakazato : A Journey through Clay”

会期 2021年8月21日[土] ~11月28日[日]

菊池寛実記念 智美術館

東京都港区虎ノ門 4-1-35 <https://www.musee-tomo.or.jp>

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

このたび当館では2021年8月21日（土）から11月28日（日）までの会期にて、「中里 隆 陶の旅人」展を開催いたします。本展は、佐賀県の唐津を拠点としつつ国内外を自在に行き来しながら独自の作陶を続けてきた陶芸家、中里隆（1937年～）の仕事の全貌をご紹介しますものです。つきましては、本リリースにて展覧会の概要、展示内容等をお知らせいたします。未だコロナ禍が続く困難な状況ではございますが、ひとりでも多くのお客様にこの展覧会にお運びいただきたく、周知にご協力を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

敬具

■ 展覧会概要 ■

展覧会タイトル：

中里 隆 陶の旅人

Takashi Nakazato : A Journey through Clay

- 会 期 2021年8月21日(土) ～ 11月28日(日)
- 主 催 公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社
- 会 場 菊池寛実記念 智美術館（〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビル）
<https://www.musee-tomo.or.jp>
- 観覧料 一般 1,100 円／大学生 800 円／小中高生 500 円
- 開館時間 午前 11 時から午後 6 時まで（入館は午後 5 時 30 分まで）
- 休館日 月曜日（ただし 9 月 20 日は開館）、9 月 21 日（火）、
- 展示内容 陶芸家・中里隆（1937～）の仕事を紹介する展覧会
本展にて発表する新作の他、壺、花入れ、茶道具、食器などの代表作、関連作品など凡そ 100 点余にて構成。（会期中、展示替えの予定あり）

展覧会に関するお問い合わせ

☎03-5733-5131／FAX 03-5733-5132（展覧会担当：高田）

智美術館では平常通り事前予約不要にてご観覧いただいておりますが、ご来館のお客様には、当館の新型コロナウイルス感染拡大防止対策のご確認とご協力をお願いしております。

展覧会のご案内

中里隆(1937-)は、九州・佐賀県のやきものである「唐津焼」をルーツとしながら、国内外を自由に行き来し、多彩でユニークなスタイルで作陶を続ける作家です。唐津の名門陶家、中里太郎右衛門窯の十二代目当主(号:無庵、1895-1985)の五男として生まれた中里は、京都や唐津で作陶の基礎を修得した後、1971年には種子島に渡り島の土による種子島焼を手がけます。帰郷後、自身の「隆太窯」を築窯し拠点とすると、各地に旅をし、その土地での出会いと学びを楽しみながら作陶を重ねてきました。海外の土や釉など、現地の素材を活かしながらも、空間を飾り、手で触れ、用いることに喜びを見出してきた日本のやきものの原点である「器」に基礎を置くその作品は、活動の初期から現在まで長年にわたって多くの人を魅了してきました。本展では鉢や壺などの大型作品から食卓を彩る食器まで、新旧合わせ 100 点余りの作品によりその幅広い仕事をご紹介します。

■ 展示内容紹介



「異国(唐)への港(津)」という地名をもつ九州の唐津は、大陸へ繋がる交易拠点の一つとして古来より人や物、技術が行き来する場所でした。16-17 世紀、桃山時代には朝鮮半島より伝わった技が起源となり所謂「唐津焼」が生まれます。国内で興った新興窯場の一つであった唐津では、土味に富んだ陶土に鉄絵による大らかな絵付けを施した「絵唐津」、刻文象嵌で模様を表す「三島唐津」、灰釉や藁灰釉などの釉薬に特色を持つ「斑唐津」や「朝鮮唐津」等のスタイルによる器が作られ、国内で広く流通しました。

中里は作陶の道に入ると、家の仕事を担い唐津焼の基礎を身につけますが、同時にその枠に収まらない自由なやきもの作りのあり方を模索します。大胆で澁刺としたエネルギーを放つ古唐津の美には共感を抱きながらも、それを伝統や規範として写す仕事には反発し、やがて郷里から離れ、旅を重ね、各地に滞在しながら制作するという創作スタイルを確立しました。

見どころ① 焼締め陶の美 - 「種子島焼」と「唐津南蛮」



(1) 「種子島播鉢」、1971年(個人蔵)

桃山時代など古い時代の唐津焼においては主流でなかった焼締め陶を、中里が得意とするようになったのは、陶磁研究者で陶芸家の小山富士夫(1900-1975)の導きが大きかったといえます。小山の推薦で1971年に種子島に窯を作ると、地元の土による焼締め陶を試み成功させます。薪窯を用い、自然に降る灰や焰で生まれる焼け色を見所とする焼締め陶は、素朴でありながら力強く、土の味わいに満ちています。さらに中里は窯に工夫をす

ることで、高温で焼き上げながらも、土にしっかりとした質感を残す独自の焼成を実現し注目されました。種子島で手応えを得た中里は、1974年に郷里に戻った後も「唐津南蛮」と名付け現在まで取り組み続けており、焼締めは主要な作風の一つとなっています。

見どころ② 海外制作による多彩な作品と迫力ある大壺を展示

特に1980年代から本格化した海外制作では、アメリカ、南米、欧州、中国など各地を巡り、異文化の中で自身の技術によって人との繋がりを築き、現地の窯や材料を柔軟に取り入れ創作するという、独特の活動を展開してきました。そうした制作によって培われた中里の作陶は、器を基本としますが、ロクロの勢いと躍動感を見せる古唐津風の作品から、モダンでシャープな作りをした現代的感覚をみせるものまで、一人の作家が手がけたと思えないような、幅広いスタイルを特徴とします。展覧会では旧作より優品を選び多彩な作品をご覧ください。



(2)「緑釉提瓶」2008年頃(個人蔵)、アメリカ、アングーソンランチにて制作



(3)「唐津三島皿」2009年(個人蔵)、隆太窯にて制作



(4)「焼〆叩き大壺」、2017年(個人蔵)、エストニア、コヒラにて制作
土の質感や焼きへのこだわりには日本の陶芸家としての鋭い感覚を見せながらも、シャープな形の扁壺(2)や三島を還元焼成で黒く焼き上げた食器(3)には、現代的で洒落なセンスが光る。紐作り技法で作られた大壺は径が65cmを越え圧倒的な迫力を放つ。

見どころ③ 豊かな交流から生れた作品-他作家との新作や関連作を紹介



(5)有元利夫「無題」1982年
(三番町小川美術館蔵)
下側部分をロクロで中里が制作。

中里自身が故郷に礎を築きながらも旅を重ね、人と交わり自由にのびのびと創作をすることを好んできたように、唐津市みづかの見借に建つ「隆太窯」には場所の魅力と中里の人柄に惹かれた多くの客人、画家や音楽家、文筆家などが集ってきました。

そうした他分野の作家との交流から、時には思いがけない魅力的なものも生まれました。展示では、信楽にて他作家と制作した新作や、画家の有元利夫(1946-1985)が隆太窯に滞在した際に手がけた陶人形など、交流の中から生まれたものを関連作として展示します。



山あいりに位置し、緑に囲まれせせらぎの音が響く隆太窯

■作家略歴

- | | | | |
|------|---|------|---|
| 1937 | 唐津焼十二代中里太郎右衛門(無庵)の五男として佐賀県唐津市に生まれる。 | 1991 | 中国、磁州窯研修、調査。 |
| 1959 | 京都市立工芸指導所に学ぶ(約1年間)。 | 1992 | 中国、釣窯、龍泉窯研修、調査。 |
| 1960 | 京都清水坂・松風榮一に入門(約1年間)。 | 1996 | デンマーク、ロイヤルコペンハーゲン招待作家(以後、5年間毎年招待作家として訪デンマーク)。
アメリカ、コロラド州アンダーソン・ランチ・アートセンター招待作家(以降、招待作家として現在まで度々滞在制作)。 |
| 1961 | 佐賀県立窯業試験所で井上萬二らに轡轡の指導を受ける(約6ヶ月)。
朝日新聞社主催第10回現代日本陶芸展にて、陶彫「双鱼」第一席受賞。 | 1999 | 米国、コロラド州のデンバー美術館にて1年間個展。 |
| 1967 | 米国、欧州、中近東、東南アジア、韓国などを1年間旅行。 | 2003 | チリ、サンチャゴにおいてチリ日本大使館主催による個展。
フランス、ラボヌヌへ研修旅行。 |
| 1971 | 陶磁研究者、小山富士夫(1900～1975)の推薦により、種子島の西之表市古園に築窯、種子島焼きを始める。
9月、日本橋三越及び大阪高島屋にて種子島焼きの初めての展覧会を開催。以降各地にて個展を開催。 | 2005 | 米国、N.Y.にて唐津展“CENNECTION THROUGH GRAY”(四人展:中里隆、マルコム・ライト、中里太亀、中里花子)。
米国、ユタ州立大学へ招待作家。同、ハワイ、アカデミー・アートセンター、ホノルル美術館、ハワイ大学や地元の高校などで制作活動、デモンストレーション。 |
| 1974 | 種子島を引き上げ、唐津に帰る。
唐津市見借に窯を築き、唐津南蛮等を主として作る。
窯は小山富士夫により「隆太窯」と命名される。 | 2006 | ユタ州立大学へ招待作家。 |
| 1985 | 日本陶磁協会主催の現代陶芸選抜展賞を受賞。 | 2009 | 小山富士夫の築窯した美濃、花の木窯にて作陶。
唐津、洋々閣にて個展。 |
| | | 2017 | 傘寿記念 中里隆作陶展(高島屋各店)。 |

■関連行事 お問合せ・お申込み Tel. 03-5733-5131

アーティストトーク

9月18日(土) 15:00 聴講無料(要当日観覧券、予約不要・整理券配布予定)
中里隆氏(個展作家)

ナイトミュージアムコンサート「フルートの小さな宇宙」

10月9日(土) 美術館の閉館後、B1展示室フロアにて開催。
演奏:有田正広氏(フルート、桐朋学園大学特任教授)
定員40名(事前お申込み制)、会費2,000円+当日観覧券

講演会「陶の旅人・中里隆 ～その人とうつわ」

10月30日(土) 15:00 聴講無料(要当日観覧券、予約不要・整理券配布予定)
講師:荒川正明氏(学習院大学教授)

学芸員によるギャラリー・トーク

9月4日、25日/10月2日、23日/11月6日、20日 各土曜日14:00 ※予定
予約不要(要当日観覧券)。※変更等の情報は当館HPにてお知らせします。

※関連行事は変更になる可能性があります。最新情報は当館HPでお知らせします。

■ Additional Information

美術館一階「カフェ 茶楓」にて特別メニューを提供！

2021年春に智美術館建物1階にNewオープンした「茶楓(さふう)」。

日本庭園に囲まれた店内は、内装を一新し、
庭園や美術館展示室とのバランスを考えたくつろぎの空間となっております。



素材にこだわったドリンク、甘味、軽食を用意しております。日本庭園を眺めるカフェの内装は、展示の余韻をゆっくりと味わって頂けるよう、間接照明と木の設えを基調にした店舗となっております。

■ 茶 楓 salon Safu

営業時間: 11:00 - 18:00 (L.O.17:30)

定休日: 月曜日 (祝日の場合は営業、翌平日休業)

電話番号: 03-6453-0097

<https://www.safu.tokyo>

※営業時間等、状況により変更の可能性がございます
ので、最新情報は茶楓 HP をご確認ください。



展覧会会期中、作家の「隆太窯」の器で特別メニューをご用意いたします。(写真はイメージです)

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースに紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を读者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

掲載に関するお問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館(足立)

TEL.03(5733)5131 FAX.03(5733)5132 <https://www.musee-tomo.or.jp/>

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX : 03-5733-5132

●貴社基本情報

会社名:	
担当部署:	担当者名:
住所:	
電話	ファックス:
E-MAIL:	

●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名:	
	発行日:	発売日:
TV ラジオ	媒体名:	
	放送日:	放送時間:
ネット	URL:	

●画像貸出リスト ※キャプションには作者名・作品名・制作年・所蔵者・撮影者を必ず入れてください。

希望に☑	作品キャプション
☐	1) 中里隆「種子島播鉢」、1971年(個人蔵) (撮影: 尾見重治、大塚敏幸)
☐	2) 中里隆「緑釉提瓶」、2008年頃(個人蔵) (撮影: 尾見重治、大塚敏幸)
☐	3) 中里隆「唐津三島皿」、2009年頃(個人蔵) (撮影: 尾見重治、大塚敏幸)
☐	4) 中里隆「焼〆叩き大壺」、2017年(個人蔵) (撮影: 水崎浩志)
☐	5) 有元利夫「無題」、1982年(三番町小川美術館蔵) (撮影: 尾見重治、大塚敏幸)

●読者プレゼント用チケット希望: ☐5組10名様 ☐10組20名様

プレスプレビューのご案内

展覧会の内覧会に先立ち、プレスの皆様に向けてプレビューを開催し、展覧会の趣旨、作品などについてご説明申し上げます。ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスプレビュー 2021 年 8 月 20 日(金) 13:15 ～

13:15 ～13:45 展示室にて、展覧会のご説明、作品解説などを行います。

展覧会、会場内をご撮影いただけます。

13:45 ～14:00 皆様からのご質問にお答えいたします。

当日は 14 時以降の内覧会に作家の中里隆氏も臨席される予定ですので、取材などお受けいたします。

(※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって、時間、内容を変更させていただく場合がございます。)

会場：菊池寛実記念 智美術館 (〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1)

- ・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6 分／虎ノ門ヒルズ駅出口 A1・A2 出口より徒歩 8 分
- ・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8 分
- ・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8 分
- ・銀座線・虎ノ門駅：出口 3 より徒歩 10 分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAX にて

ご返信下さい。**返信先 FAX 03-5733-5132**

会社名：

担当部署、氏名

住所：

電話：

FAX：

Email